米沢市都市計画マスタープラン及び米沢市立地適正化計画
第２回検討委員会　会議録（要点筆記）

１　日　時　平成３１年１月１７日（木）　午後３時００分～午後４時３０分

２　場　所　米沢市役所　Ｂ棟第５会議室

３　出席者　委　員　増村力委員長、小林秀一委員長代理、大木一明委員、加藤渉委員、須貝容子委員、高橋弦子委員、仁藤重美委員、藤﨑晃委員

（欠席　伊藤美智子委員、小林正義委員、高澤由美委員）

事務局　建設部長、都市整備課長、同課長補佐、都市政策主査、同課主任

（策定支援委託会社２名）

４　内　容

（１）開会

（２）委員長あいさつ

（３）議事

①　現状と課題の整理並びに全体構想の検討について

②　その他

（４）閉会

〔開始　午後３時００分〕

（１）　開会

（２）　委員長あいさつ

都市計画マスタープランの策定では、色々な議論が必要である。本日も皆様からの忌憚のない意見をいただき、計画を作り上げていきたいので、議論をお願いしたい。

（３）　議事

米沢市都市計画マスタープラン及び米沢市立地適正化計画検討委員会設置要綱第５条第２項の規定に基づき、委員長が議長となり議事進行を行った。

①　現状と課題の整理並びに全体構想の検討について

事務局より、配布資料に基づき説明。

(委員長)

本日の資料について、質問意見を出していただきたい。

人口問題については、地域の今後を考えていく上で、どのような規模にしていくかを共有しないといけない。人口減少に歯止めをかけていきたいというのは、共通理解と考える。残念ながら日本全体が人口減少であり、米沢市だけが人口減少に歯止めをかけるのは難しい。その傾向が薄まっていくということは、ありえないだろうか。

(委員)

人口のデータは、住民基本台帳のデータか。

(コンサル)

国勢調査によるものである。

(委員)

米沢市の昼間人口はわかるのか。

(委員)

派遣の方が、結構いるのかもしれない。

(委員長)

いわゆる昼間人口は、近隣市町から来ている人口であるが、高速道路が開通したので、福島から来られる方もいると考えられる。逆に、米沢市から福島に行く方も出てくると考えられる。

都市計画マスタープランの主要な課題で、土地利用、交通、守る部分と挙げているが、明るく豊かな地域をつくり、その中に住まいを含めていくためには、産業に関する部分も重要な課題ではないか。現状と課題に、意識して産業に関する課題を載せなかったのか。

資料3の基本的方向には、「産業活動を支援する基盤づくり」が入っているが。

(事務局)

意識して入れなかったわけではない。他都市の都市計画マスタープランの主要な課題のまとめ方と比較しても、同じような形となっている。現状と課題をまとめていく中で、表現が一般化していき、産業という言葉が埋没していった。基本的方向で、改めて表現しているが、主要な課題にも産業を加えた方が良いかご意見いただきたい。

(委員長)

「豊かな自然や優良農地の保全」が主要な課題に挙げられているが、藤﨑委員からご意見はないか。

(委員)

農業の就業人口が減っている。高齢化も進んで、コメを作るのが難しくなっている方も増えている。農地を一か所に集約化して経営できる人は良いが、農地が分散しているため集約化できない方もいる。一か所に集約化できれば、作業効率も上がり、労働環境の向上につながる。

(委員長)

就業人口が少なくなっているため、農業を営む上で農作業のしやすさは、効率性を上げるうえでも必要ということか。

(委員)

農業用水についても同じことが言える。農業用水路の維持管理の人数が確保できないため、農業用水路の維持管理に労力がとられてしまい、農業に注力できない状況も生まれている。

(委員)

私は米沢市に何十年と生活しているが、米沢市は災害が少ないところなので、防災に対して危機感が低いと感じている。「安全安心な生活環境の形成」を課題に挙げているが、「災害に強いまちづくり」という表現が市民の方に共感を得られるかどうかと感じる。

雪については、市民は災害と感じていると思うので、雪は米沢市にとって災害の一つと

いうことにポイントをおいて文言を整理すると、市民の方も取り組みやすくなると思う。

アンケート調査や、日常の電話連絡等で、こんなところが不満とか直して欲しいなど、どのような意見が多いか教えて欲しい。

(事務局)

米沢市は、雪が多いので、昨年度の降雪量は例年並みだが、気温が低いため雪が解けなくて大変苦労した。高齢化が進んでいるので、雪を家の前に置いていかないで欲しいということ、除雪車が来ないということ、吹雪になったから除雪車を出して欲しいということなどの苦情が寄せられている。昨年は約 1,000 件の要望と苦情が寄せられた。

(委員)

県道の除雪に関して最も多いのは、排雪の依頼と、除雪後の雪が壁となって見通しが悪くなるため視距を確保して欲しいという要請が多い。

(委員)

排雪する場所も無くなる。

(委員)

空き家と雪問題について、資料 1 の 11 頁に「米沢市空家等対策計画」に「利活用できない空き家」については「除去の促進」とあり、除去した後の敷地の利活用検討例として、「地区住民が除雪路線沿線の空地を押雪場として活用できる施策の検討(土木課)」とあるが、これを推進して欲しい。

空き家は建物の除去費用がかかったり、所有者を調べたりなど時間がかかるので、空き地を市で借り上げて町内会で管理して使えるような施策が必要である。

(委員長)

固定資産税の減免など行うと、喜んで貸す人も出てくるのではなかろうか。

一時の対策のほか、恒常的には、流雪溝の整備を行うなど効率的な除排雪の活動を行うことも必要である。

(委員)

アンケート調査は、60 歳以上の回答が 57%となっている。50 歳以上を合わせると 70%を超えているため、福祉や雪への対策が重視された結果になっていると考えられる。全体として子育てしやすいまちに対する意向が低くなっているのは、20 代の回答者が少ないためだと感じた。

私は帰宅するときは、興譲小学校の前を車で通るが、興譲小学校の前に凄く雪があり、小学生が出てきたらどうするかということを心配している。先週も舘山で、雪のため見通しが悪く事故があった。除雪車のオペレーターは足りているのか。人材の確保が課題ではなかろうか。

(委員)

私は冬の間は、除雪車のオペレーターとして働いているが、オペレーターは高齢者が増えている。若手に募集をかけても集まらない状況である。除雪する道路の延長も伸びており、請け負う除雪の距離も伸びている。除雪に必要な除雪車、オペレーターの数は足りていないのが現状である。オペレーターを確保できる環境づくりが重要である。

(委員)

県道管理者の立場から話すと、除雪を委託しているが、オペレーターは足りない。工事を請け負っている会社に対して、民家から除雪を頼まれたら除雪を優先して良いという通

知を出している。工事が遅れても良いから、除雪に人をまわす対策をしているが、それでも人と機械が足りていない。機械は毎年、増やしているが追いつかない。

米沢市のまちづくりでは、雪は一番の問題だと思う。もう少し雪対策に踏み込んで計画策定を考えることも必要ではないか。

(委員)

バス事業者という立場ではあるが、バスを利用する、しないにかかわらず色々な方に話を聞くことがあった。消雪道路では除雪されないが、生半可に水を出されるとかえってひどい路面状況になることがあり、どちらかと言えば消雪ではなく除雪してもらった方が良いとの話を聞く。

バス運行では、バスを停留所に寄せられない場所が何か所かある。

(事務局)

様々なご意見をいただいたが、雪の問題は大きいと感じた。

(委員長)

除雪、排雪を行っていくためには、人と機械が足りていなく、その確保も難しいと意見が出された。今後、何を行っていかなければならないか。例えば、流雪溝などは検討できないか。

(事務局)

米沢市は、昔から農業用水を主に利用しながら、まちなかの流雪溝の利用にあてている。新たな流雪溝整備を行う場合、水利権を取って、整備計画を立てることになる。最上流部の現況河川からの流量のことなど検討課題が出てくる。今のところは、現況の流量を利用しながら実施していくということになる。リサイクルのような形で、流雪溝を一度流下した水を再度使うといった取組も研究したい。

「雪対策計画」でも、流雪溝の計画的な整備が求められているので、そのような視点は大事である。

(委員長)

雪以外に、土地利用や暮らしやすさについて、意見はないか。

(委員)

アンケート調査で都市の将来像は「安全なまち」が上位に挙げられている。安全とは、交通安全などの意味だろうか。

(コンサル)

アンケート調査では、様々な選択肢の中の一つに「安全なまち」という聞き方をしている。特定の「安全」を意図したものではない。自由記述欄の意見も踏まえ、関連した意見が拾えないか確認したい。

(委員長)

アンケート調査では、前段の現状と満足度で「自然災害などに対する安全性」など聞いており、災害などに対する安全性に意識がいっているかもしれない。

(委員)

毎年人口が減っている。人口が減っていても世帯数は減っていないと思っていたが、世帯数も減っている。人口をどのように維持するかを考えると、人が出ていかないようにするか、出ていった人を呼び戻す、あるいは、新しくこのまちに住みたいと思われるようなまちづくりをすることだと思う。資料 1 の 34 頁にある「現状の満足度」を見ると、「史

跡・文化財の保全と活用状況」は 59%が「どちらともいえない」と回答している。米沢の良さをどのように活用すべきなのかが、わかってないのだと思う。一方で、資料 1 の 49 頁で景観づくりに関することが大事だと回答されている。今住んでいる人たちが、米沢の文化を知って、情報発信して盛り上げていくことが必要だと感じる。

(委員長)

住んでみたくなる、帰ってきたくなるまちづくり―ＵＩＪターンを推進していかなければならない。それは「働きやすいまち」であり「暮らしやすいまち」でなければならない。そして、文化面も大事だと感じる。

主な課題に対する解決手段について、短期で行うもの、中期、長期で行うものを、この計画で示していくのか。

(事務局)

資料 3 の右側に示した目次の 6 番目に「実現化の方策」があり、この中で実現していくための手段を掲げていく。様々な個別計画がある中で、それぞれの手段を載せていくものではなく、都市計画マスタープランと立地適正化計画は、まちづくりの方向性を示す計画なので、長期的なものについては、方向性を検討するなどの表現とならざるを得ない部分も出てくる。

立地適正化計画では、評価の指標で目標値を定め、そのためにどういった施策に取り組むのかを示すこととなる。

(委員長)

都市計画マスタープランは、何年ごとに見直すのか。

(事務局)

都市計画マスタープランの見直し時期は 10 年後である。立地適正化計画は概ね 5 年ごとに達成状況について評価を行うこととしている。

(委員長)

全ての課題は重要だが、何から取り組むのかも重要だ。これについて何か意見はないか。

(委員)

本日の会議で全て議論するのは無理なので、各委員が持ち帰って、次回まで考えるなどした方が良い。

(事務局)

本日の資料 3 の「新都市計画マスタープランの全体構想(案)」の項目について、ご意見をいただければと思う。項目に不足などないかご確認いただけないか。

(委員)

「まちなかへの居住の誘導」とあるが、「地域コミュニティセンターの維持」との兼ね合いはどのような方向性を考えているか。地域コミュニティセンターは維持していくのか。

(事務局)

基本的な観点としては、市街地の人口密度が今後も下がっていけば、商店や福祉施設などの需要が減って維持できなくなる可能性があるので、人口密度を維持するなり、人口減少の歯止めはかけられなくとも、減少のスピードを遅くしていくなどにつなげていきたい。一方、周辺地域については、総務省で周辺地域の活力を維持するための「小さな拠点」のあり方について考え方を示している。本市では、周辺地域が消滅しても良いなどという考え方はなく、地域コミュニティセンターは、今後も維持していく。このことは「米沢市公

共施設等総合管理計画」で示されている。資料 3 の基本的方向で「周辺地域と市街地のネットワークの形成」を挙げたが、市街地に都市機能を集約させ、都市機能を周辺地域に住む方が活用できるようにネットワークをつないでいきたい。周辺地域は維持しつつ、市街地を強くしていきたいという考え方である。

（委員長）

この計画は全ての都市機能を中心部に集めるものであると、市民に誤解を与えるのが懸念される。全ての都市機能を中心部に集めるということではない。

暮らしやすいとは、どのような状態をいうのだろうか。

（委員）

就業の場があることだと思う。

（事務局）

まちなかの都市機能が充実している。都市機能があるところの周辺に住むことによって暮らしやすい。雪が効率的に排雪され、雪がバリアにならない環境がある。保育が充実している。福祉が充実している。医療が充実している。あらゆることがあると思う。総じて言っているのは、コンパクトで快適な都市づくりの中では、都市機能の集約、保健・医療・福祉の連携強化、雪と災害に強い快適環境、安全な交通環境などのような要素が挙げられる。

（委員長）

そのほか事務局から、議事について確認しておきたいことはあるか。

（事務局）

随時ご意見があればフィードバックしていきたいと考えている。先ほど、委員からご提案あったが、資料を持ち帰っていただき、次の会議でご意見をいただければと思う。

（委員長）

今後の会議は、今年度中に開催する予定で、資料にはもっと中身が入ったものとなるのか。

（事務局）

次回は、計画書に近いものにまとめつつ、新たな全体整備構想あたりも示していきたい。

（委員長）

以上をもって議事を終わる。

②　その他

特になし

（４）　閉会

〔終了　午後４時３０分〕